

しれとこ の森通信

2015
No. 18

100 平方メートル運動の森・トラスト

特集 苗のおいたち

苗畑で育成した大型の苗木。幹に樹皮保護ネットを巻けるサイズになるまで柵の中で育て、運動地内の各所に植え込んでいく。苗の重さはひとつ数百キロにもなるため、掘り取るのも、運び出し作業も一苦労。運動開始から 38 年―。未来を見据えた森づくりの挑戦はこれからも続く。

この用紙は環境保全（資源活用）のため
古紙配合紙を使用しています。



NATIONAL TRUST

知床で夢を育てませんか！

いのちあふれる森を次の世代へ

100平方メートル運動地のあ
る夏の風景。人の腰や背丈ほどの
木々が青い葉を茂らせています。
左下に見える木はオヒョウ。知床
の森であまり見かけることのなく
なった特別な木です。もともとは
ごく普通にありましたが、特に小
さなうちは真っ先にシカに食べら
れてしまうので、この10数年、限
られた場所以外ではほとんど目に
することはなくなりました。しか
し、なぜ、この写真には写ってい
るのでしょうか。

実は、これらの木々は、シカが
入れないように柵で囲まれたとこ
ろに、人の手によって植えられた
もののなのです。100平方メート
ル運動の森づくりでは、知床の開
拓跡地にかつてあった森の再生を
目指し、この18年間で約1万3千
本の苗木を育て、そして植えてき
ました。この写真のような風景に
なるまでに10余年。苗木の1本1
本には、森の番人の知恵と技術、
たくさんの方のボランティアの方など
関わってきた多くの人の思いが詰
まっています。

今回は、知床の森で植えられて
いる苗木がどのように育っている
か、詳しくご紹介します。

特集

苗のおいたち

1 苗畑をつくる

苗木生産の第一歩は、苗木を育てるための場所「苗畑」を整備することです。かつては畑だった開拓跡地もその後の年月を経て、どこもササや草木にびっしりと覆われています。土の質や風向きなど苗木の生産に適した立地を見定め、まずはササなどを起こし、耕すところから始めます。現在、運動地の中には2か所の苗畑があります。

シカ対策のための柵を立てることも忘れません。今なお続くシカとの戦いで重要な役割を果たしている「防鹿柵」の第一号は苗畑を守る柵でした。



苗畑第一号（1998年5月）

最初は、苗畑にバラ線で囲んだ柵をつくりましたが、すぐにシカに入られました。その後、シカ対策の柵づくりは何度も試行錯誤を重ねながら、今も進化を続けています。



防鹿柵とシカ

2 種を採り、まく

知床の森づくりでは、苗木を生産するために「種を採り、まく」という方法をとっています。秋から冬にかけて、運動地や周辺の森から樹種ごとの実の成り具合に合わせて種や実を集めます。そして、種類によっては、発芽しやすいように種のまわりの果肉を取り除くなどの処理を施します。



ミズキの種子の果肉の除去

そして、種まきの前にやらなければならない大切な作業が「苗床づくり」です。種をまく場所を根気よく耕して、種が発芽し苗木が育っていくための苗床をつくります。ここで肝心なのが、土の中のササやスギナ（ツクシ）など雑草の元となる根っこをできるだけ取り除くことです。

この作業の良し悪しで、その後の草取りの労力が如実に変わってきてしまうのです。

これで行うべく種をまく段取りが整います。樹種ごとに苗床を区分けして、丁寧に種をまいていきます。



アオダモの種をまく

ちなみに、自然に生えている小さな苗木を採取してくる「山採り」という方法もあります。

利点は、種をまいてからの数年間の手間を短縮できることのほか、人の手で種から育てるのが難しい樹種（カツラなど）でも生産が可能なことです。山採りした苗は、種から育てる苗木と同じく、数年間は苗畑で育てます。



森林再生員（知床財団）

苗畑で育て、植えた樹種

――広葉樹――

オヒョウ
ミズナラ
ハルニレ
キハダ
カシワ
ヤチダモ
エゾヤマザクラ
シウリザクラ
ミヤマザクラ
ミズキ
アズキナシ
イタヤカエデ

ナナカマド

カツラ
ハウチワカエデ
ホオノキ
キタコブシ
イヌエンジュ
アオダモ
コクワ
ミツバウツギ
ミヤマイボタ

――針葉樹――

トドマツ

育てる

〈草取り、水まき〉

春、雪融けとともに1年生の苗木の芽が顔を出します。ここから数年間は、常に苗畑の様子を気に掛ける日々が続きます。苗木の成長とともに伸びてくる、まわりの雑草をすべて手作業で取り除きます。もちろん日々の水まきも欠かせません。水まきは、ただやみくもにまくわけではありません。それぞれの苗木や土の状態を見ながら水の量を調整したり、効率的に水をまくためにホースの扱いをマスターしたりなど、数々の経験と技術が必要なのです。



1年生キハダ



草取り

草取りはとにかく人海戦術。ボランティアの皆さんの力が欠かせません。



苗畑の維持には水の確保が欠かせません。ひとつの苗畑では近くの沢から引いていますが、もう1ヶ所は、車で運んだ水をいったん1,000ℓの大きなタンクに貯めておき、そこからポンプを使って水まきをしています。

なタンクに貯めておき、そこからポンプを使って水まきをしています。



「水やり3年」という言葉があるように、水まきといえども職人並の技術が必要です。

〈根づくり〉

年々、大きくなっていく苗木ですが、すぐには苗畑の外に出せません。丈夫な根をつくるために、苗木を掘り取って別の苗床に植え替える「床替え」という作業を行います。いったん根を切断することで新しい発根を促し、その結果、強く丈夫な根をつくるのです。そして、何回かの床替えを経て根づくりを終えた苗木だけがようやく苗畑の外へと旅立てるのです。

床替えには必要以上に苗木を大きくしないという効果もあります。



床替え

植える

数年間の時を経て、いよいよ木を植える「植樹」の段階までやってきます。知床では、春と秋が木を植えるのに適した季節です。ただし、細かい適期は気温や雨量、雪の始まる時期や雪の解け具合など、天候や苗木の状態によって毎年変わります。

〈地拵え〉

植える先はもちろん防鹿柵の中です。まずは、柵内に生えているササなどを地面の際から刈り払う「地拵え」という作業を行います。この作業によって、苗木が植えやすくなり、また植え付けた後の苗木の管理がしやすくなります。

〈掘り取り〉

根づくりを終えた苗木を苗畑から掘り取ります。丈夫に育った苗木の根はしっかりと土をつかみ、ちよつとやさつとでは土が根から落ちません。根と土がひとつになったこの状態を「根鉢」と呼んでいます。しっかりとした根鉢こそが、これからの長い年月、苗木が知床の大地で生きていくために重要なのです。

へいざ、植樹！

一度の植樹で準備する苗木の数は、各種とり混ぜて数百本から数千本にもなります。この木々をボランティアや植樹祭の参加者の皆さんと一緒に植えていきます。この時よく「植樹地の中のどこに植えたらいですか？」と聞かれますが、その答えは、「どこでもOK」です。人は、どうしてもまっすぐ植えたり、均等に植えたりしがちですが、極力自然に近い形を目指すためにもランダムに植えてもらっています。

このように長い年月と手間暇をかけられ、知床の大地に植えられた苗木が、未来の森の礎となっています。



苗木の 植え方



① 穴を掘る

根の大きさに合わせて穴を掘る。ぜったいに穴にササの葉などのゴミが入らないように！

余計なものが入ると根の付きが悪くなる。深さも重要。根が自然に収まる深さで、深すぎず、浅すぎず。見定めた穴にしっかりとスコップを入れ1周して、プリン型に土を切り出す。穴のすぐ脇に置くのが大切なポイント。

② 穴に苗木を入れる

穴の中の土をスコップで少し切り崩し、細かくほぐす。根が伸びやすいように土の層をつくる。その後苗木を入れ、大きさや深さが合っているか確認する。ここで見落としがちなのが、苗木の角度。まがったまま植えてしまうと、苗木は上に向かって伸びようとするため無駄な力を使ってしまうので注意。

③ 土を入れる

入れる土は、さつき脇にいたプリン型の土の山を使う。最初は、てっぺんの土をスコップで削ぎながら少しずつ入れていく。根鉢のまわりに土が入ったら、スコップでほぐして、根鉢の真下に向かってスコップを差し入れ、下の方にも土が入るようにする。こうすることで、根鉢のまわりに空間が開かず、土と密着した状態がでかあがる。

④ 土を踏みしめる

次に根鉢のまわりの土を両足の土ふまずで包み込むような感じで1周しっかりと踏みしめる。これを穴の深さが半分くらいになるまで繰り返す。そうすると、根鉢のまわりの土がしまり苗木が安定する。

⑤ 仕上げ

最後の仕上げ。根鉢の高さになるように土を入れ、もう一度最後に踏みしめる。これで完成！

今、広葉樹を植えるわけ

知床の森づくりは、もともと知床にあった本来の森、針葉樹と広葉樹が適度にまじりあった「針広混交林」を開拓跡地に再生させることを目標にしています。

ところで、現在、知床の森で育て植えている木の多くは広葉樹ですが、なぜ今、広葉樹を積極的に植えているのでしょうか。

当初、針葉樹と広葉樹は同じように植えられていました。しかし、ちょうどその頃増え始めたエゾシカによって、植えた広葉樹がことごとく食べられてしまう



当時の林業方式により直線状に植樹されたアカエゾマツ

という事態に直面します。その結果、シカが好んで食べないアカエゾマツなどの針葉樹を中心に植えていくことに手法が変わっていきました。

木の植え方も今とは違っており、“単一の樹種を直線的に”植えていました。当時、「自然の森を再生する」という先駆的な前例などほとんどなく、すでに確立されていた林業方式を用いていました。さらに、植える苗は生産場所の不明なものを外から買っていたため、知床の生態系には本来ない遺伝子を持ち込んでしまうという課題もありました。

そこで、1997年、これらの課題を解決するために、自分たちで森の中に防鹿柵で囲まれた苗畑を作り、運動地の中で採った種や苗を育て、植えるという新たな取り組みを始めたのです。そして育てる苗は、本来の針広混交林の森に戻すため、かつて植えて残っている針葉樹ではなく、広葉樹を中心としました。

今、植えている広葉樹は、ひと世代前に植え続けて立派に育った針葉樹に守られながら、知床の森で少しずつ育っています。

未来の森へ向けて

このように育て、植えてきた苗木は、すべてが太木にまで育つわけではありません。しかし、人の植えた木がある程度の大きさにまで育った頃、その下には、自然の苗木が芽生えやすい環境が生まれます。そして、人の植えた木がやがて枯れる頃、自然に芽生えた木々が森の主役にとって代わり、新たな森の循環が始まるのです。

その後、人の手を離れた循環が、何十年、何百年の間に何度も繰り返されることで、目指す森がよみがえるのです。

人が木を植えることは、その循環の第一歩を手助けすることなのです。

しかし、18年続けてきたこの森づくりは今、新たな転換点を迎えようとしています。

ちょうど本格的に苗木の生産を始めようとした頃、知床では増え始めたエゾシカによって広葉樹が食べられ、その数を減らしているという状況でした。そのため、苗木を育て、植えるのも全て、防鹿

柵なしには進められませんでした。今、その防鹿柵で囲まれた場所が、これまで植えた木や自然に生えてきた木々でいっぱいになっているという現状があるのです。

新たに柵を設置して場所を確保するということも考えられますが、将来的な補修や改修のコストを考えると、防鹿柵を設置し続けることには限界が見え始めてきています。そのため、近年は柵に頼らない森づくりの手法として、「大きな苗木にシカから守る樹皮保護ネットを巻いて、柵のない場所に植える」という作業にも着手し始めました。

数百年先の未来を見据えた森づくりは、これからも試行錯誤をしながら歩み続けます。

2014年度 に行った作業

森づくりナビゲーター
へーべえ君



苗畑で大型苗 40 本を床替え
(5/23-27 第 12 回知床森づくりの日・春にて)

5 月

苗畑の除草作業
(ボランティア作業にて)

6-10 月

運動地公開コース
「しれとこ森づくりの道」オープン

7/30



岩尾別川沿いの防鹿柵を拡張
(9/26-29 第 7 回ダイキン知床ボランティアにて)

9 月

トドマツ苗 137 本を山採り、苗畑内に移植
(10/10-14 第 14 回知床森づくりの日・秋にて)

10 月

運動地公開及び幌別園地活性化を
目的とした社会実験

10/14
-31



樹皮保護ネットの巻き直し作業

2-3 月



5 月

岩尾別川沿いの柵内にカツラ苗 177 本を植樹
(5/16-19 第 6 回ダイキン知床ボランティアにて)

6/1

知床国立公園 50 周年・世界遺産 10 周年
キックオフイベント
「100 平方メートル運動地公開ツアー」開催



7/30
-8/5

第 35 回知床自然教室 開催

8 月

苗畑の苗床づくり & 老朽化した防鹿柵の補修
(8/22-26 第 13 回知床森づくりの日・夏にて)

9 月

サクラマスの遡上状況を調査
(岩尾別川、幌別川)

10/19

防鹿柵内に中型苗 42 本を移植
(第 18 回しれとこ森の集いにて)

10/30
-11/4

針葉樹植林地に作ったギャップ*に大型苗
18 本を移植 (第 18 回森づくりワークキャンプにて)

11/20
-21

森林再生専門委員が運動地を視察

1/31

冬期運動地公開
「スノーシュー・歩くスキーコース」オープン

2 月

積雪期の運動地巡視

大雪により柵内にシカが侵入!!



急遽、柵のまわりを除雪...

*ギャップ：針葉樹植林地の一部を切り開いて作ったスペース

平井雄大さん

ひらい ゆうだい
慶應義塾大学法学部1年生
埼玉県在住

知床が世界自然遺産に登録された翌年の2006年、当時小学4年生だった平井さんは、東京から知床、斜里町の峰浜小学校（現在は閉校）にふるさと留学し、小学校を卒業するまでの3年間を知床で過ごしました。平井さんは現在18才。大学進学を前にした2015年の冬、久しぶりに知床を訪れ、ボランティアとして1か月間滞在しました。今回は、そんな平井さんの知床との関わりや思いなどを伺いました。

そもそも、ふるさと留学で知床に来たきっかけは何でしたか？

きっかけは、自分から言い出したことでした。ある日の夕飯の時に「自然の中で暮らしてみたい」と何気なく言ってみたところ、親もそんな体験をさせたいと考えていたようで「いいね」という返事が返ってきて、そこから全てが始まりました。最初から知床と決めていたわけではないのですが、調べるうちに、ちょうど世界遺産に登録された知床にある峰浜小学校でふるさと留学を受け入れていると知り、一度見学しに訪れ「いいところだ」と思ったので、行くことに決めました。

なぜ、自然の中で暮らしてみたいと思ったのですか？

来る前は自然に触れることなどほとんどなくて、虫も魚もさわる事ができませんでした。はつきりとは覚えていませんが、自分のそんなところが嫌でなんとかしたかったの

ではないかと思っています。

実際に知床へ来て、どんなことを感じましたか？

転校してきたのは4月でしたが、まず雪の多さに驚きました。また、知床という動物がたくさんいるという漠然としたイメージがありましたが、実際に道路脇に普通にシカやキツネがいて感動したことをよく覚えています。

学校生活はどんな様子でしたか？

児童数は全校で20人くらい、東京のひとつクラスより少なくて驚きました。何よりみんなの仲が良かったです。学校では、サケの稚魚の飼育や鮭とば作りをしたり、放課後も海や山で遊んだりしていました。普段の生活がまさに自然の中でした。そんな毎日が楽しくて、最初は1年間の予定でしたが、延長して3年間を峰浜で過ごしました。

毎年、夏の知床自然教室にも参加されていましたが、その時の印象を教えてください。

それまでキャンプもしたことがなく、テント生活も寝袋で寝るのも初めてでしたが、とにかく楽しかったことを覚えています。羅臼岳に登ったり、川の源流を目指したりと、その年ごとに内容も違って色々な経験をすることができました。



自然教室参加当時の平井少年 (2006)

知床での生活を終えた後、自分の中で何か変わったところがありましたか？

まず、自分自身が変わったと思います。もしここに来なかったら、全く違う人間になっていた気がします。あの時背中を押してくれた親に

感謝しています。すぐに虫も魚も触れるようになりましたし、今回はシカの解体も抵抗なく手伝うことができました。高校では、山岳部に入りましたが、これは間違いなく知床での経験の影響です。埼玉の中学や高校の生活も楽しかったですが、今でも知床が故郷だと思っています。

これからの知床との関わりについて何かイメージがあれば教えてください。

大学に入っても知床にはもちろん行きたくなると思いますが、まずは山岳系や自然関係のサークルに入って活動してみたいと考えています。

そして、いつか自然教室の時には途中までしか行けなかった羅臼岳の山頂にも立つてみたいと思います。

ばくの原点は、やはり知床です。



河川環境の 10 年

知床が世界自然遺産になってから今年で 10 年目を迎えます。当時、「しれとこ 100 平方メートル運動」は自然を守り育む地元の取り組みとして高く評価され、知床の遺産登録を強く後押ししたのは記憶に新しいところです。それからあっという間に 10 年が過ぎてしまいましたが、知床では自然の価値を守るための様々な取り組みが、一步一步確実に行われてきています。今回 10 周年を機に、その中の一つ、「サケ類が海と川をより自由に行き来できるようにするための対策」についてご紹介したいと思います。

なぜこんな取り組みをしているの？

海から川に戻ってきたサケの仲間は、森の生きもの、例えばヒグマの食べ物となり彼らの命を支えます。また、死骸は微生物に分解されて森の栄養源となります。サケ類の遡上は陸域生態系の生産性と多様性を豊かにするのです。実は、この海と陸のつながりが評価されて知床は世界自然遺産になっています。一方で、土砂災害を防ぐために作られてきたダムがサケ類の遡上の妨げにもなっていました。

実際、どんな取り組みをしたの？

自然災害から人々の生活を守り、かつ、サケ類が遡上しやすくするために、5 河川 13 基のダム本体、または魚道が改良されました。

成果は？

5 河川のうち、例えば 100 平方メートル運動地を流れる岩尾別川では、これまでダム下流でしか見ることはできなかったサクラマスや産卵床が、ダムの上流でも見るできるようになり、産卵場所が広がっていることが確認されています。



改良前



改良後



100 平方メートル運動地

ダム

ダム改良後にサクラマス
が確認できたエリア



図・岩尾別川で改良されたダムの位置と新たにサクラマスが確認されたエリア



ダム改良の成果は確実に上がってきているようです。しかし、それ以上にうれしい変化は、環境省、林野庁、北海道、斜里町などいろいろな機関と一緒に、それぞれできることをやろうと一生懸命このプロジェクトに取り組んできたということです。一昔前は既存のダムに

手を加えるなどとてもないといった風潮がありましたが、これも世界遺産の効果なのかもしれませんが、今後も少しずつ河川環境が改善され、より多くのサケたちが川を上り、その川とともに 100 平方メートル運動地の森が育っていければいいですね。

メッセージの紹介

ご寄付いただいた皆様からのメッセージの一部をご紹介します。

企業ボランティアの一員として知床の森林再生運動に参加させていただきました。これからもこの運動を応援させていただきます。よろしくお願いいたします。

(大阪府 40代女性)

知床で生まれたナショナルトラスト。これからも大きく育ってゆくよう願っています。

(東京都 70代男性)

乱開発に反対し守り続けた勇氣、愛情に感動しました。わずかですがご利用ください。また、知床へ行きます。

(埼玉県 40代女性)

知床の美しい森がみんなの思いで守られるのは、とてもステキなことだと思います。「今自分にできることを精一杯する」この気持ちをいつも持っていたいと思います。よろしくお願いいたします。

(神奈川県 60代男性)

1984年に初ボーナス(4万)を寄付して以来、30年振りに寄付します。

(大阪府 50代男性)

35年前、娘が誕生した時に一生残る誕生祝いに100平方メートル運動に参加しました。次女が生まれた時にも当然参加しました。10年ほど前、知床自然センターで100平方メートル運動参加者に私たち家族一同の名前を見つけた時は「本当にあった」と記念写真でした。運動の賛同者が少しずつでも増えていくことを願っております。

(東京都 60代男性)

若い頃に共鳴して寄付した運動が発展し、大きな実りをもたらしていることを知り、うれしく思います。感謝の気持ちを込めて新たに寄付させていただきます。

(大阪府 男性)

息子が運動に参加しております。100歳の誕生日を迎え、記念として少額ではありますが寄付させていただきます。

(神奈川県 100代女性)

従業員の力で年末賞与から切り出すことができました。みんなの気持ちのこもった寄付金です。

(愛知県 企業)

75歳と72歳になりました。元気に夢を実現できるように頑張っています。いつも元気をありがとうございます。

(三重県 70代男性、女性)

10年ほど前に夫婦で知床を観光で訪れたことがあります。先日テレビ「日本遺産物語」でこのような素晴らしい運動をされているのを初めて知り、共感を覚えました。自然大好き人間です。「自然は時に牙を剥いて襲いかかってきます。自然には畏敬の念を持って接しなければなりません」知床の未来、子供たちの未来を信じてささやかですが応援させていただきます。

(神奈川県 60代男性)

自然を愛し永く病んでいた娘の遺志でお届けします。わずかですがお役立てくだされませ。

(東京都 80代女性)

ここでは載せきれない程
たくさんメッセージを
いただきました！



こんにちは。斜里町役場・環境課の自然環境係長を務めております高橋です。

いつもあたたかいメッセージ、本当にありがとうございます。日本全国の皆様からの言葉が、私の殺風景なデスクに花を添えてくれます。職員一同熱い想いで知床の森と向き合っていますので、これからもご支援の程、どうぞよろしくお願いいたします。



斜里町長 馬場 隆

引き続き皆様のご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

その森を夢見て新たな挑戦を続けてまいります。

「100平方メートル運動の森・トラスト」への温かいご支援に対し、心より感謝申し上げます。今年も「しれとこの森通信」をお届けする季節となりました。

私たちが運動を始めたときから大切にしていること、それは皆様の思いに寄り添いながらこの運動地に知床本来の豊かな自然を取りもどすことです。これから

その原点を忘れずに、未来の森を夢見て新たな挑戦を

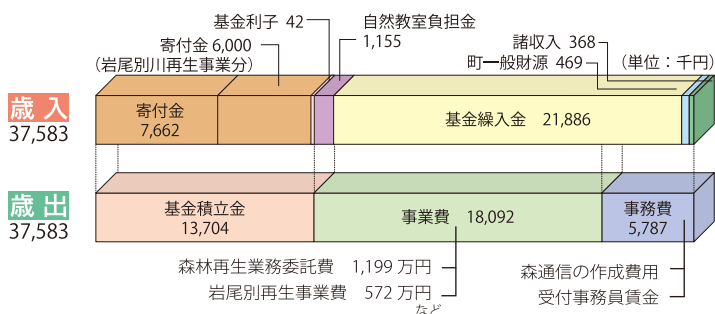
続けてまいります。

引き続き皆様のご支援ご協力をよろしくお願いいた

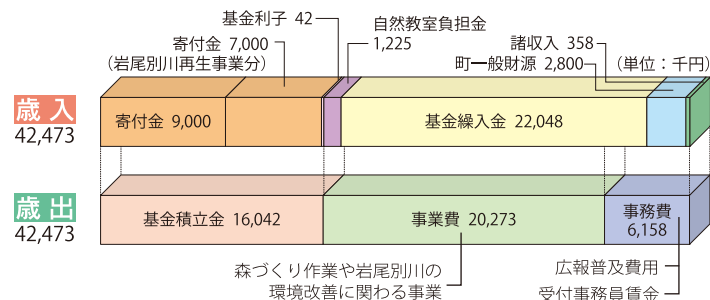
します。

斜里町長 馬場 隆

2014年度決算の内訳



2015年度予算の内訳



運動の活動資金は、「国立公園内森林保全基金」として斜里町が管理しており、町の一般会計と基金からの繰入金により事業を実施しています。

2014 年度決算と 2015 年度予算の詳細については左図をご覧ください。

会計報告

国立公園内森林保全基金の状況

(単位: 千円) (2015年5月31日現在)

国立公園内森林保全基金		2013年以前	2014年	計
歳入	寄付金	822,939	13,662	836,601
	利息	69,690	42	69,732
	計	892,629	13,704	906,333
歳出	事業費	695,938	16,936	712,874
	事務費	122,202	4,950	127,152
	計	818,140	21,886	840,026
残高				66,307

運動参加（寄付）のお願い

「100 平方メートル運動の森・トラスト」は、運動参加者の皆さまからの毎年の寄付金によって支えられています。引き続き、あたたかいご支援をよろしくお願いいたします。

寄付金 一口:5,000円

寄付の方法

【郵便払込】

1. 申込書に必要事項をご記入の上、郵送またはファックスで斜里町役場へ送信してください。
2. 申込書付属の払込取扱票もしくは下記口座まで寄付金をお送りください。

口座番号: 0 2 7 4 0 - 8 - 1 0 5 5 5

加入者名: 斜里町役場

※郵便局以外の金融機関からお振込みを希望される場合は、お問合せください。

【現金書留】

申込書を同封の上、現金書留を斜里町役場にお送りください。

ホームページからもお申し込みいただくことができます！



控除制度について

運動への寄付金は、所得税および住民税の控除制度（ふるさと納税）の対象となります。

- 所得税は、課税対象額から寄付控除を受けることができます。
- 住民税は課税額から寄付控除を受けることができます。
- 控除の対象となるのは、2,000円を超えるご寄付です。

【お問合せ】

〒099-4192 北海道斜里郡斜里町本町12番地
斜里町役場 自然環境係
TEL: 0152-23-3131 (内線100) FAX: 0152-23-4150
MAIL: 100m2@town.shari.hokkaido.jp
「100平方メートル運動の森・トラスト」ホームページ
<http://100m2.shiretoko.or.jp/>



2015 年度 知床の森づくりカレンダー

● 週末ボランティア募集

● 参加者募集イベント

2015 年

6月							7月							8月							9月							
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	
		1	2	3	4	5	6				1	2	3	4						1				1	2	3	4	5
7	8	9	10	11	12	13		5	6	7	8	9	10	11	2	3	4	5	6	7	8	6	7	8	9	10	11	12
14	15	16	17	18	19	20		12	13	14	15	16	17	18	9	10	11	12	13	14	15	13	14	15	16	17	18	19
21	22	23	24	25	26	27		19	20	21	22	23	24	25	16	17	18	19	20	21	22	20	21	22	23	24	25	26
28	29	30						26	27	28	29	30	31		23	24	25	26	27	28	29	27	28	29	30			

第36回知床自然教室

10月							11月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
					1	2	1						
4	5	6	7	8	9	10	8	9	10	11	12	13	14
11	12	13	14	15	16	17	15	16	17	18	19	20	21
18	19	20	21	22	23	24	22	23	24	25	26	27	28
25	26	27	28	29	30	31	29	30					

第19回
しれとこの森の集い

第19回
森づくりワークキャンプ

2016 年

1月							2月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
					1	2							6
3	4	5	6	7	8	9	7	8	9	10	11	12	13
10	11	12	13	14	15	16	14	15	16	17	18	19	20
17	18	19	20	21	22	23	21	22	23	24	25	26	27
24	25	26	27	28	29	30	28	29					
31													

※12月と3月はイベント&ボランティアの募集はしていません

イベント参加者募集中!

知床の森づくりには皆様の力が必要です! 皆様のご参加お待ちしております



第36回 知床自然教室

- 日 程: 7月30日(木)~8月5日(水) 6泊7日
- 対 象: 小学校4年生~高校3年生
- 定 員: 40名(先着順)
- 参加費: 35,000円
(別途、現地までの交通費)
- 申 込: 7月3日(金)まで

全国から集まる仲間とともに知床の森で暮らす一週間!



知床森づくりの日・秋

- 日 程: 10月2日(金)~6日(火) 4泊5日
- 定 員: 12名(18歳以上)
- 参加費: 16,000円(宿泊・食費込)
- 申 込: 各開催日の2週間前まで

知床の森で4泊5日の森づくりを体験しませんか!



第19回 しれとこの森の集い(植樹祭)

- 日 程: 10月18日(日)
- 参加費: 無料
- ※こちらの参加申込みは斜里町役場まで
【斜里町役場自然環境係】
TEL: 0152-23-3131
FAX: 0152-23-4150

運動地の散策や植樹祭など、秋の知床を満喫する1日です。



第19回 森づくりワークキャンプ

- 日 程: 10月30日(金)~11月4日(水) 5泊6日
- 対 象: 18歳以上
- 定 員: 15名(先着順)
- 参加費: 18,000円(宿泊・食費込)
- 申 込: 10月16日(金)まで

森の番人指導のもと本格的な森づくりに打ち込む6日間!



イベント・ボランティアの参加申込み・お問い合わせはこちらまで。

「公益財団法人知床財団 自然復元係」

TEL: 0152-24-2114 MAIL: info@shiretoko.or.jp

詳しくは 100 平方メートル運動 HP で

知床 運動 ▶ で検索!